



発行者
諫早市立真城中学校
校長 山内 昇

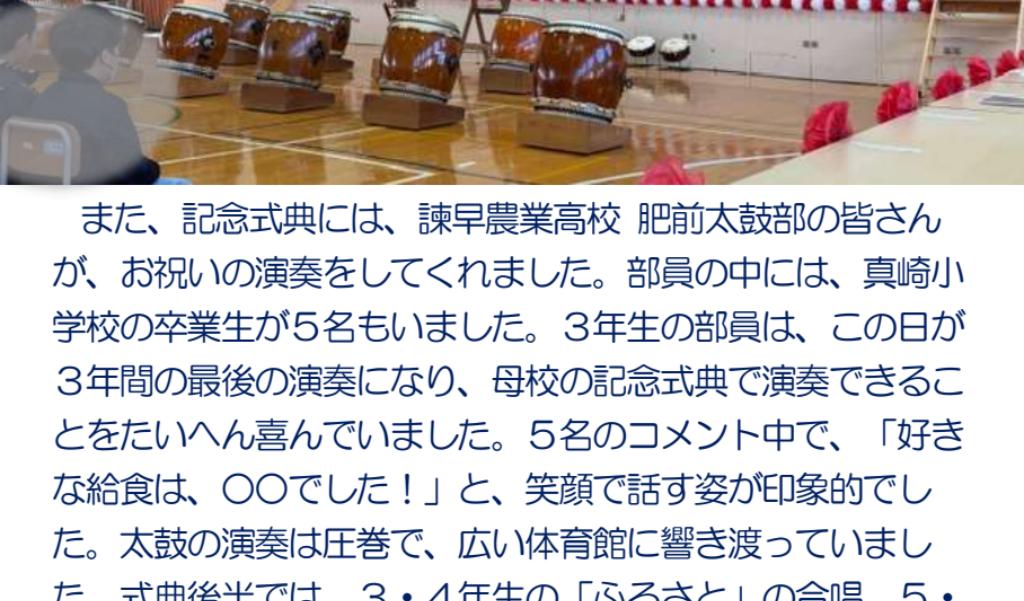
学校教育目標

- 広い心と公正な判断力のある、情操豊かな生徒を育成する。 (德育)
- 自ら求めて学び、豊かな知性を備え、創造力に富む生徒を育成する。 (知育)
- 健康でたくましく、忍耐力に富む生徒を育成する。 (体育)

○ 真崎小 創立150周年おめでとうございます！

16日（日）に、創立真崎小学校150周年記念式典に出席させていただきました。

沿革史によると、「明治8年・1875年」に「津水」に創設され、何度も移転・改築・改称を経て今に至るそうです。真城中にも古い航空写真がありますが、創立から90年経ったものです。西諫早小・真城小も真崎小から分かれてできた学校で、この真城地区の教育の「礎」となる学校です。



また、記念式典には、諫早農業高校 肥前太鼓部の皆さんのが、お祝いの演奏をしてくれました。部員の中には、真崎小学校の卒業生が5名もいました。3年生の部員は、この日が3年間の最後の演奏になり、母校の記念式典で演奏できることをたいへん喜んでいました。5名のコメント中で、「好きな給食は、〇〇でした！」と、笑顔で話す姿が印象的でした。太鼓の演奏は圧巻で、広い体育館に響き渡っていました。式典後半では、3・4年生の「ふるさと」の合唱、5・6年生による、昔の真崎小を「劇とクイズ」で振り返る発表も見ごたえがありました。また、子どもたちだけでなく、この真崎小150周年を成功させようとする、保護者・地域の方々の熱い思いにも感銘を受けました。この真崎・真城地区の教育の歴史の重みに触れ、私たち真城中学校も、これまでの素晴らしい伝統を、しっかり引き継いでいかなければ！と改めて感じました。

○ 公衆電話について（お知らせ）

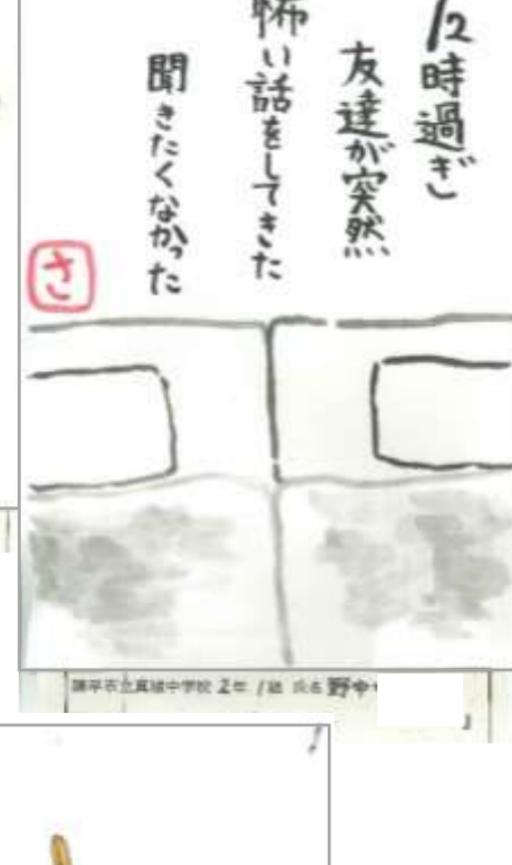


生徒玄関に設置されている「公衆電話」の設置がなくなることの連絡が、管理をされているNTTから入りました。毎月の利用額が、「設置するための利用額」を下回っていることが理由です。上の、真崎小150周年記念式典の際に伺ったところ、最大140人を超えることもあった真崎小が、現在は約1/10となり、真城中も同様に、生徒の数が減っています。それに伴い、公衆電話の利用数も減少しているので、仕方のないことだと考えます。生徒のみなさんへは不便をかけることになりますが、緊急の際などは、職員室から対応できるようにしますので、安心してほしいと思います。また、部活動終了などの際、お迎えの場所・時間等は、あらかじめ、ご家庭で決めていただけると幸いです。

これも時代の流れなのかなと思いますが、少し寂しい気持ちになりました・・・。

○ 修学旅行の思い出を絵ハガキに（その2）

第63号に引き続き、2年生の修学旅行絵ハガキを紹介します。今回、京都では、朝早い出発だったので混雑を避けることができ、ゆっくり見学できたようです。生徒の作品を見ると、3日目の水族館をテーマにしている人が多かったです。ダイナミックに動いている実際の生き物の姿に感動したのだと思います。このシリーズはその3まで続きます。



今日の給食 (18日)

今日（18日）の給食は、米粉パン、パン
ブキンスープ、スパイシーチキン、白菜とりんごのサラダ、でした。



個人的には、**白菜とりんごのサラダ**がとても美味しかったです。白菜は、冬の野菜で、鍋など温かいメニューとして食べることが多いので、サラダにしてりんごと和え、ドレッシングで吃るのは新鮮でした。しっかりした歯ごたえがあり、サラダの美味しさを引き立てていました。スパイシーチキン、パンプキンスープも美味しかったです。米粉パンとよく合うメニューでした。上の、真崎小 150 周年記念式典で、諫早農業高校の太鼓部の真崎小卒業生が、「一番好きメニューは、パンでした」という言葉を思い出しました。

また、昨日（17日）は「赤米ごはん」が出ました。古代米と言われていますが、江戸時代くらいまでは全国的に作られていたそうです。また、**赤飯**のルーツで、古代では赤米はたいへんなごちそうで、神様に供えていたそうです。その風習が現代に残り、赤米の色を再現するために小豆が使われ、赤飯になっているそうです。

ちなみに、以前、「赤米100%」で、炊飯器でお米を炊いたことがあるのですが、決められた分量は守った方がよいと痛感しました（失敗談です）。

昨日の ⇒
赤米ごはん

